

あべっこだより 安倍口中央こども園

園目標の「自分で考えて行動する」を考える

河原で
スイカ割り
をしたい…

職員からの提案は、園目標に向かっての保育の思いが詰まっていた。なぜなら…子ども達に考える力をつけたいという願いがあるからです。

スイカと棒を保育教諭が用意し、目隠しをしてスイカ割りをする。これが例年のスイカ割りでした。でも、今年のスイカ割りは“スイカを割るには、何が必要なのか？”子ども達に投げかけるところから始まります。先に答えを出すのではなく自分達で考える時間を作るのです。「棒！」「スイカ」と言葉が返って来たので、「スイカはあるけど、棒が無いんだけど…」と更にやりたいことを実現するためにどうしたらいいのかと投げかけていきます。すると「河原にあるよ」とこれまでの遊びの経験から河原にいけば棒があることを確信していました。



自分で選んだ棒を持ってきてスイカを叩くものの、細い棒 短い棒は、スイカを叩いても折れてしまったり、スイカはびくともしません。「これじゃあ駄目だ！」とその棒を捨てて次の棒を探しに行きます。



あきらかにその棒は無理！と保育教諭は分っていても子ども達に教えないことが鉄則！

大人が伝えなくてもスイカを割ろうとチャレンジする様子を見ていた年長児が、どんな棒を持ってくるといいのか、どうしたらスイカが割れるのか分析をする様子も見られました。

試行錯誤を繰り返し、気づき・発見 → 細い棒は、叩くと折れちゃう
「これなら大丈夫かも…」と予測を立てる → 太い棒は折れないかも…

太くて長くて丈夫な棒を持ってくるようになったものの長くなる分、先をスイカに当てるのも難しい！スイカに当てるには棒の持ち方や持つ位置も考えなくては…それから、棒を振りかぶるようにしてスイカに当てることも必要です。



これらの子どもの学びは、初めから成功する中からは、生まれにくいもの！失敗を繰り返し、何度もチャレンジをするからこそ生まれるものだと思います。その気持ちを大人が、応援していきたいですね